

平成25年度事業概要

社会福祉法人佐渡福社会定款の目的にもとづき、障害者支援施設（岩の平園、第二岩の平園）、障害福祉サービス事業（そよかぜ、あんずの家、まつはらの家、グループホーム・ケアホーム）、相談支援事業、障害者就業・生活支援センター事業の円滑な経営に努めた。

職員給与体系を見直し、職員の待遇改善を図った。職員配置としては、法人全体で生活支援員8名、技能労務員2名、看護師1名を新規採用した。

法人設立30周年記念事業を実施した。多数の関係機関の出席もあり、盛会に開催できた。

岩の平園では認定調査の結果、平均障害程度区分が上がり、重度化、高齢化がさらに進んでいる。健康管理・医療面のケアのニーズが高まり、それに伴う形で介護技術のスキルアップが求められている。

第二岩の平園では利用者2名の方が病気で亡くなった。看護師の業務量増大により、3名（内2名パート）体制とした。常勤看護師の募集をしているが、確保するまで至っていない。

あんずの家では3名の利用者が就職できた。それにより、就労移行支援事業の利用率が下がった。就労継続支援B型事業は定員を25名に変更し、利用契約者は29名になった。

まつはらの家では新規利用者が3名、退所者が4名であった。特に、就労移行支援事業は定員（10名）割れとなり、収支の面では厳しいものとなった。

そよかぜでは1日平均利用者が前年度より1名増えて約15名となった。新潟県の実地指導が行われたが、特に指摘事項はなかった。

グループホーム・ケアホームでは4月からさわた寮で短期入所事業を開始した。7月にさわた寮の裏の土手が豪雨で崩れたが、関係機関の協力を得て早急に復旧できた。また、本間弘子氏よりみなと寮土地・建物の寄附採納を受けた。

相談支援事業は計画相談作成件数が急増した。相談支援専門員を増員し、3名体制で事業展開した。本年度の計画作成は228件、モニタリングは122件であった。

障害者就業・生活支援センターの実績として就職36件、職場実習41件であった。

相談支援事業と障害者就業・生活支援センターでは2月より、そよかぜの事務所内から旧子ども会館（吉井）の建物に移転して事業を行っている。